

令和２年度 第１回石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 令和２年６月２６日（金）午後３時００分～午後５時００分
会 場 石狩市公民館 視聴覚室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、城野委員、二上委員、林委員、小笠原委員、近藤委員、納谷委員、大内委員、船木委員、永田委員、出口委員、高橋委員、松本委員
事務局 佐々木教育長、西田次長、板谷課長、開発課長、斉藤主査（社会教育主事）、薩来主事（社会教育主事補）
傍 聴 ０人

（斉藤主査）

皆さん、こんにちは。社会教育課の斉藤です。定刻となりましたので、ただ今から、令和２年度第１回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。

それでは、早速、会議次第に入らせていただきます。最初に、石狩市教育委員会教育長佐々木隆哉より、ご挨拶申し上げます。

（佐々木教育長）

皆様こんにちは。教育長の佐々木と申します。

本日は、ご多忙の中、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆様におかれましては、日頃より、本市のまちづくりをはじめ、社会教育の推進にご尽力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

また、このたびは社会教育委員をお引き受けいただきありがとうございました。今後２年間、よろしくお願い申し上げます。

さて、コロナウィルス感染症拡大防止のため、北海道は２月にはじまった独自の緊急事態宣言、政府の緊急事態宣言等により、学校の臨時休業、外出の自粛や施設の使用停止、イベントの開催停止、自粛など、施設自体も含め、いろいろな行事が休止になりました。初夏の訪れとともに、少しずつ社会経済活動が動き出し、ほっとしているのは、私だけではないと思います。

ご存じのとおり、持続可能な開発目標（SDG's）には、「すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」とあります。このような非常事態の中ではありますが、私ども教育委員会としては、こういった目標を見失うことなく、いろいろな施策に取り組まなければならないと、決意を新たにしております。

ちょうど、新しい教育プランがこの春から動き出したところでございます。このプランの策定には、社会教育委員の皆さまからも貴重なご提言をいただき、ありがとうございます。

その教育プランには、「ふるさとへの愛着をもち、幅広い視野で新しい価値を創造し、活躍する人を育てる」を目標の一つに定め、心豊かで充実した人生と、一人一人の活動が社会全体に活かされる「地域で育ち・学び・生きる教育」を推進するとしております。

この推進にあたりましては、社会教育委員の皆さまの本市の実状を把握する取り組みと、それを踏まえたご提言、さらには引き続き地域課題を掘り下げる取り組みが求められると存じますが、委員皆様のご見識はもとより、「行動する社会教育委員」の実践の成果にも大いに期待しているところでございます。

また、現在、新しい生活様式が各方面で知恵を出し合いながら進められており、社会教育の分野でも新しい生活様式が求められるのだと思います。様々な分野でご活躍されています社会教育委員の皆さまには、具体的で意義深い情報やご意見をいただけるものと考えております。

社会教育にとって、ひとに会えないというのは、非常に足かせになっているとは思いますが、市民の社会教育、生涯学習をしっかりと保障していかなければならないと思います。

結びになりますが、今後 2 年間、皆さまには本市の社会教育の推進に大にお力添えをいただきますようお願い申し上げ、簡単ではありますが、以上で委員委嘱にあたってのごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員及び関係職員紹介

(斎藤主査)

続きまして、各委員の自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

(斎藤主査)

続きまして教育委員会で社会教育の分野を担当する職員の自己紹介を行いたいと思います。

(職員自己紹介)

3. 委員長・副委員長選出

(斎藤主査)

次に委員長及び副委員長の選出に移ります。委員長・副委員長の選出に関してご意見をお持ちの方はありますか。特にご意見がないようでしたら、事務局で案を用意しておりますので、提案させていただいてよろしいでしょうか。

【承認】

では、委員長を木村 純様、副委員長を大橋修作様にお願いいたします。

それでは、委員長からごあいさつをお願いいたします。木村委員長よろしくをお願いいたします。

(木村委員長)

社会教育委員の会議委員長を仰せつかりました木村です。

ほとんどの社会教育の事業が中止や延期になったりして、ひとつひとつの町の取組は何とかなってますが、全道、全国で集まって何かをやるというのは、目処が見つからない状況です。

これからの社会教育はどうしたらいいのかっていうのをみんなで考えなければなりません。元々社会教育は楽しいものです。皆さんと楽しく話し合っていきたいと思います。

(斎藤主査)

ありがとうございました。なお、教育長は、次の用務のため、ここで退席をさせていただきます。ご了承ください。

【教育長退席】

では、これ以降の報告・協議等について、木村委員長にお願いいたします。

(木村委員長)

では、会議次第に従いまして、会議を進めますが、新しく社会教育委員になられた方もいらっしゃると思いますので、社会教育委員はどんな役割があるのか、事務局から説明してもらいます。

(斎藤主査) 【「社会教育委員について」資料に基づき説明】

(木村委員長)

社会教育は地域の住民自身が、自主的に学ぶことが大事なので、それをどうするかというのは、地域を代表する社会教育委員が中心になって進めていくという考え方です。

社会教育には、いろいろな形で住民の意見を反映させて、進めていく仕組みが用意されていて、例えば公民館には公民館運営審議会を置くことができるとか、図書館や博物館には協議会を置くことができると法律には書いてあります。

実は、社会教育委員は法律で規定されていますが、社会教育委員の会議とか社会教育委員

会議は法律で規定されていません。

ひとりひとりの社会教育委員の役割が大事であります。ほとんどの市町村には、社会教育委員の会議が設置されています。皆さん一人ひとりが社会教育委員として、地域の社会教育が、うまく進められているのか注意深く観察しながら、皆さんと意見を交わしていけたらいいなと思います。

さっそく、会議次第に従いまして、まず、報告の1、令和2年度石狩管内社会教育委員連絡協議会総会（書面会議）について、私から報告いたします。

（木村委員長） 【資料に基づき説明】

それでは、次に進みたいと思います。

報告の2の新型コロナウイルス感染症対策等についてについて、事務局から報告をお願いします。

（斎藤主査） 【資料に基づき説明】

（木村委員長）

今回の報告に皆さんから何か質問とかありませんか。本日、参加いただいている皆さんの関係する団体のことについては、「令和2年度社会教育委員の取組について」のところでお話を伺いたいと思います。

それでは、議事の6（1）芸術文化振興奨励補助金について、事務局から報告をお願いします。

（斎藤主査） 【資料に基づき説明】

（木村委員長）

ありがとうございました。ただいまの説明にありましたように、石狩市芸術文化振興奨励補助金については、今年度については2件の申請がきております。それから昨年度の対象事業は、市内でも展示するという要望を出しておりましたが、このコロナウィルス感染拡大防止の観点から、展覧会はできなかったということです。

では、今年度申請のあった2件について、皆さんにご審議していただきますが、一つ目の「(仮称) 喜多直毅・黒田京子スペシャル・コラボ・ライブ」について、委託料とはどうい

うものですか。

(斎藤主査) 出演者の講演委託料です。

(木村委員長) 90 人のひとに入場料をとるのでしょうか。

(斎藤主査) 収入は料金収入と補助金と自己財源であります。料金収入は 125 千円の予定で、その内訳は、大人の前売り券 2000 円×50 名、大人当日券 2,500 円が 10 名を予定しております。

(木村委員長) 全体で 90 名の参加予定なので、大人は 60 名の参加を予定し、残り 30 名分は小・中・高校生の無料分ということですね。

(板谷課長) 市からもらえない場合、また料金収入が少ない場合は、自己財源で補うということです。

(木村委員長) つまり、市からの補助金は 50 万円を要望しておりましたが、交付内定額は要望より少なくなりましたが、足りない分は自己財源でまかなえるということですね。その他これについて、何かご質問はありませんか。

2 つ目の「石狩市内小・中・高等学校 校歌集」発刊事業 CD の方は、歌を歌うのは誰が歌うのですか。

(西田次長) 音源のないものについては、3 月まで厚田の地域おこし協力隊をしていた今野さんが歌うと聞いております。

(出口委員) CD 化したものをどのように使うのでしょうか。。市の補助金をもらうのであれば、作ったものを市民に還元するのですか。

(林) ぜひ、CD は公開して市民が利用できるようにしてもらいたいと思います。

(板谷) CD は 50 組制作すると伺っていますが、市民への還元ということについては、この「石狩市内小・中・高等学校 校歌集」発刊事業は、文化財保護審議会でも審議されますので、社会教育委員の会議において、作成する CD については、何らかの形で市民に公開してもらいたいという意見が出ていたと担当者には伝えたいと思います。

(出口) この補助金を募集するにあたり、どのように周知したのでしょうか。

(斎藤) 広報いしかりで周知しております。

(出口) この補助金は、関係団体には個別に伝えているのですか。

(斎藤) 個別には伝えておりません。既に知っている団体は、毎年連続してはもらえないということを知っていて、隔年で申請しているところもあります。

(出口) 今までたくさん応募があつて、受けれないときもあつたのでしょうか。

(斎藤) 今までの交付事業一覧をご覧ください。複数の応募があり、予算の制限がありますので、要望額どおりには交付できないこともございます。

(木村委員長)

今年の場合は、当初の段階で応募があつたので、昨年のような再募集はないと考えてよろしいでしょうか。。

(板谷)

もし、仮にコロナウィルスの関係で、中止となった場合には、再募集ということもあるかもしれません。

(船木)

このような状況下なので、事業が全く実施できないとか、一方はできない、もう一方はもつと予算がかかりそうだという場合は、2つの補助対象者の間で、調整するということも想定してはいかがでしょうか。

(板谷)

今の段階ではこの内定額で進めさせていただき、状況が変わった場合には、また皆さんと話し合っていきたいと思います。

(木村委員長)

それでは、石狩市芸術文化振興奨励補助金については、よろしいでしょうか。

議事の2番目の今年度の社会教育委員の取組について、議論したいと思います。

去年は「シニアの社会参加ガイドブックづくり」について、皆さんに取り組んでいただきました。原稿は下書きレベルで集まって、それをもとにして、補足のヒアリングと調査を

しようと思っていましたが、コロナの関係で2、3月は、全く知らない方にお会いするというのは、難しい状況でした。本日は、私の用意したメモがありますので、それをご覧ください。

(木村委員長)【資料に基づき説明】

石狩市の高齢者が参加するようなボランティア活動だとか、居場所づくりだとかはどういう状況におかれているのか、また、今まで休んでいたが再開しようとしているがやっぱりまだ活動ができないとか、それぞれの団体がどういう取組をしているのか。そういう状況を調べなければならないと考えています。

今日は、皆さんの関わっている団体がどのような状況なのか伺いたいと思っています。本年度、そういう方向で進んでいこうかと思っています。皆さん、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、いしかり市民カレッジはついて、状況をお聞かせください。

(林委員) 私たちは、今までほとんど公民館で会議をしていましたが、公民館が使えなかったので、花川北コミュニティセンターで会議は欠かさず行っていました。今年度は、全28講座を用意していました。講義数は37コマを用意していました。そのうち延期になったのは7講座。中止は17講座です。今現在も講座を開いておりません。バス使用する講座はすべて中止にしました。9月末に予定している講座が、今年度の最初の講座であります。会議の中でいろいろな意見がありましたが、最終的には、講座をやりましょうということになりました。否定からはじまるのではなくて、初めから危ないからやめようと言うと、全てやめるという話になってしまう。ただし、できることはすべてやりましょう。例えば、入った時には、手指の消毒、マスクをかならず着用してくださいと。今まで、コミセンの2階で受付をしていましたが、1階の広いホールで受付をして、密をへらそうと。スタッフも人員をふやして、受講者へのお願いのペーパーを配り、事前にPRをすることにしました。講師の演台や受け付けには、飛沫防止用ビニールシートを設置します。いろいろと対策をできる限りすることになっています。机なのですが、一人掛けを基本にしました。ただ、9月末にはどういう状態になっているのかわからない。今、いくら状況を考えても、わからない。そこで、Aプランは一人掛け、Bプランは二人掛け、Cプランは中止にしましょう。臨機応変に対応していこうということになりました。今後の状況をみながら、講座を開催することになりました。もう1点、われわれがやるということは、どこまで真剣にコロナ対策に取り組んでいるかわかると皆さん、安心します。スタッフが、机は始まる前にふきます。終わったあとも消毒することにしました。そのかわりスタッフ人員を増やすことにしました。できることはできるだけやっていこうということになりました。

(納谷委員)

私たちトーク☆クラブは、子ども食堂を月1回やっていますが、2月が最後でした。それ以降は中止になっていました。その間、何かしようよって、話になりました。子ども用のマスクを買って、サロンの利用している子どもたちにマスクを配布しました。

そのあとに、ホクレンからもらったミルクをもらったので、それをお便りと一緒に配りました。

第3弾として、手作りのマスクを、防塵服の生地を用意して、夏用のマスクを作り、希望者に配布しました。

今後は、感染症対策に則って、会館でシュミレーションしまして、8月から再開しようと思っています。一人で遊べるようなことを伝えていきたいと思っています。

(木村委員長)

ありがとうございます。お二人にいっぱい聞きたいことがあります、なるべく今日はたくさんの方に話してもらおうと思います。

(高橋委員)

私は寿光会という高齢者クラブに所属しています。今までは例会で、食べたり、飲んだり、カラオケをしたりしていましたが、コロナ禍でできなくなりましたので、主にしていたのは、その中の9人のメンバーで、子どもたちの通学時、ボランティアパトロールをしています。毎日7時から8時まで、自分たちの体力づくりも兼ねてやっています。他に、パークゴルフサークルやカラオケサークルも自分のマイクを持参するなどして動き始めています。

(二上)

私は、文化協会の担当なのですが。文化協会は毎年、大きな行事を3つほどやっています。今年は、3月の音楽の事業が中止に、8月には鑑賞事業があるのですが、今年は落語をやる予定でしたが、やはり中止になりました。例年10月に行っている市民文化祭が中止になりました。理事会の中でどういう風にしたらいいかと話し合いましたが、ほとんどの人がやりたいと思っていたのですが、結局は、感染がいつ収まるかわからないのと、人数がたくさん集まる行事なので、何かあると困るので、中止を決めました。

(大橋委員)

石狩ユネスコ協会は、3月から例会、総会も中止になりました。事務局の役員を中心に対外的なものは活動していますが、大きな活動はできませんでした。

7月までの活動が中止にっておりますが、8月以降で活動できるものがないかと今、検討中です。特に12月に書き損じはがきキャンペーンということで、小中学校中心に関係機関

をお願いしているものがありますので、コロナの状況を見ながら、検討中です。

日本ユネスコ協会は、今年度の活動は中止ということが決まっております。

(木村委員長)

ちょっと長くなっていますが、17 時には終わらせたいと思いますが、そのほかにありませんでしょうか。

(船木委員)

皆さんとは真逆の話です。皆さんは延期とか中止になっていますが、私は講演とか、講座とかが激増していて、例年の十倍くらいありました。コロナ禍の状況にいと、社会教育も含め、場づくりの在り方が問われていることがわかります。私はなぜ忙しいかというと、ウェブ上で講習をやるということを4月から始めていて、6月もほとんど土日もなく、夜の講座もしていて、北海道だけではなく、九州とか、大阪とか、東京の仕事が多くて、垣根がなくなった感じがしています。ウェブ上で、パソコンで講座とかやっていると、集中して、学習の質が高まる気がします。グループを作り学習する方法も、ウェブ上であって、新たな可能性を感じていて、私は、現在はNPOを動かしていますが、ウェブ上でそういう人を養成する場を作ってくこと、人材育成をして、発想の転換で、最先端の中でできることの可能性を探っていくという時期にきていると感じています。

(木村委員長)

もう一度同じことをやれるようにするっていうのは難しいんじゃないかというのも、もちろんありますが、新しい取組をしないと、社会教育の可能性がないかもしれません。オンライン的なものを地域の社会教育で取り組めるかどうか。

(納谷委員)

私、オンラインの会議に参加する機会がありました。なかなか携帯をいじっても難しいです。教えてくださる方がいてほしいなと思いました。

(二上委員)

学校の授業もオンラインでやっているのですか。

(城野委員)(1:55)

今、ギガスクール構想が全国の小中学校等で進められていて、児童生徒1人1台の端末を持てるようになると思いますが、アンケートをとり調査しますと、本校では、實際上、できない家庭もある。なおかつ、通信料も発生しますので、ご家庭の負担もありますので、いろんなものをクリアしていかないと、なかなか通信で授業をやっていくとなると保護者の

ご理解があってこそできることだと思います。慎重にすすめていかないとなりません。できない子どもが、なんでうちはできないのかとなってほしくないし、それがいじめの原因になりかねないので、子どもの気持ちを大事にしながら、進めていかなければならないと現場としては思っています。先生方もそれに慣れなければならぬということで、また第2波、第3波が来た時には、そういう手立てを考えていこうということで、それぞれの学校でいろいろな試作をしながら進めています状況です。本校では、ホームページ上に今、問題を載せたりしています。今後は動画配信もと考えています。

(二上委員)

子ども隊のために、教育委員会とか市ももっと援助してほしいと思います。

(西田次長)

ギガスクールの構想が元々あったのですが、数年後の予定であったのですが、コロナ禍の影響で、前倒しで今年中にめどをつけることになっています。調査をしている段階で、お金の部分、親御さんの理解等々ありまして、確実に一歩ずつは進んでおりますので、ご理解の方いただければと思います。

(木村委員長)

オンライン授業は、学校教育では進んでいますが、社会教育ではそれほど進んでいません。地域の人たちがつながる大事な手段なので、市民活動でコンピューターを使えるよう支援にするNPOもありますので、そういうようなところに協力してもらうこともあるかと思っています。私も大学で苦労しています。大変でしょうけど、こういう状況に対応したものを考えていかなければならないと思います。ほかに皆さんいかがでしょうか。

お聞きしたいこともいっぱいあるのですが、例えば30人で講座をやって、マスクとか消毒液を準備して、はたして採算がとれるのかとか。継続的持続的にやっていけるのかとか、たくさん問題が出てきて、行政の支援もありますが、どうすればクリアできるのか、いろいろ考えなければなりませんと思います。皆さんが知っている、それぞれの活動のいろいろな工夫をさらにお聞きして、集約しながら、それをまとめていきたいと思っています。

それでは、事務局から何かありますか。

(板谷課長)

私から、老朽化している公民館対策についてご説明いたします。皆さんにお渡しした資料、令和2年度教育行政執行方針の中にもありますが、老朽化している公民館につきましては、移転や改修など様々な手法を引き続き検討していくこととしており、今年度中にはその方向性を出していこうと考えております。

現実的な対応といたしまして、現在、公民館の使用団体には、同じ社会教育施設でありま

す学び交流センターを代替施設にできないかどうか、各団体にあたっているところです。今後、皆さんには、課題についてご相談することもあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(木村委員長)

石狩市の公民館をどうするかというのは、当然、社会教育委員にとってはすごく重要な問題なので、いずれ皆さんにもご意見をいただきたいと思っております。

以上で、本日の議題等は、全てご審議いただきました。全体を通して、何かございますか。なければ、これを持ちまして、令和2年度第1回石狩市社会教育委員の会議を終わります。今日はどうもありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

令和2年7月22日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木 村 純 印